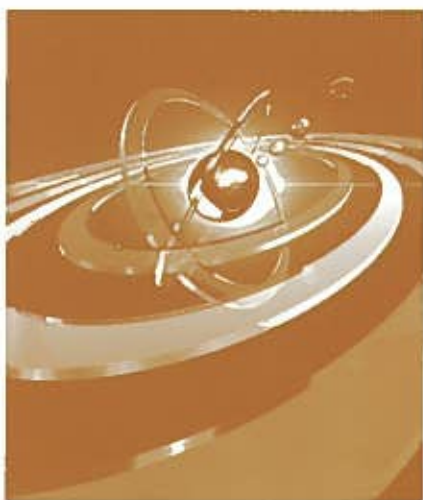


MONTHLY REPORT



VOL.14

2009.APRIL

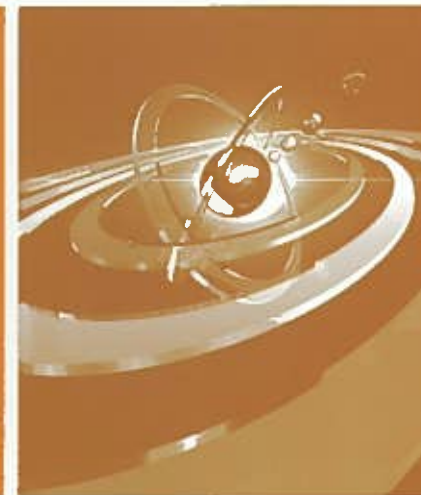
- GREETING
- COLUMN
- MINI REVIEW
- REPORT
- NEW COURSE INFORMATION
- EVENT INFORMATION

Mid-West Japan
Cancer Professional Education Consortium
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム



MONTHLY REPORT

MANAGING OFFICE
2-5-1 SHIKATA-CHO KITA-KU
OKAYAMA 700-8558 JAPAN
PHONE:086-235-7023 FAX:086-235-7045
<http://www.chushiganpro.jp/>



VOL.14
2009.APRIL

- GREETING
- COLUMN
- MINI REVIEW
- REPORT
- NEW COURSE INFORMATION
- EVENT INFORMATION



愛媛大学
愛媛大学大学院医学系研究科
学務室大学院チーム
TEL(089)960-5868

岡山大学
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
学務課大学院係
TEL(086)235-7986

香川大学
香川大学医学部学務室
(入試担当)
TEL(087)891-2074

川崎医科大学
川崎医科大学学務課
教務係
TEL(086)464-1012

高知女子大学
高知女子大学学生課
大学院担当
TEL(088)873-2157

高知大学
高知大学学務部岡豊学務課
大学院教育担当
TEL(088)880-2263

徳島大学
徳島大学医学・歯学・薬学部等
学務部学務課大学院係
TEL(088)633-9649

山口大学
山口大学医学部学務課
大学院教務係
TEL(0836)22-2058

四国がんセンター
TEL(089)999-1111



● コンソーシアム参加がん診療連携拠点病院
● 参加大学・がんセンター

趣旨・組織

がんは、わが国の死亡率第1位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等(コメディカル)の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成を行うため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとに行われる大学院のプログラムが「がんプロフェッショナル養成プラン」です。

ごあいさつ

当コンソーシアム事務局では、講演会、海外研修、学生募集などの連絡を目的としたマンスリーレポートを発行しています。

本プランは、中国・四国8つの大学が一つのコンソーシアムを作り、各大学院にメディカル、コメディカルを含む多職種のがん専門職養成のためのコースワークを整備し、これに地域の28のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門職を送り出すプログラムです。がんに関わる多職種専門職が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあたることのできるよう職種間の共通コアカリキュラムの履修を出発点として教育研修を行います。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のファカルティ・ディベロップメントを運動させ、がん専門職養成の教育能力を強化します。こうして専門的臨床能力、チーム医療や臨床研究の能力をともに身につけたがん専門職が数多く輩出されることにより、地域におけるがん治療の均てん化、標準化が期待されるとともに、臨床研究の活性化が期待されます。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸いです。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
事務局

中国・四国全域に広がる拠点病院
組織的・効率的ながん治療の均てん化の実行組織



中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム代表 退任・就任 ごあいさつ

代表退任にあたって

前コンソーシアム代表
田中 紀章



陽春の候、皆様には益々ご清祥にてご活躍の事とお慶び申し上げます。

私事、この度3月31日をもちましてコンソーシアム代表を退任いたしました。

皆様には「中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム」の立ち上げ及び運営に関し多大なるご支援、ご尽力を賜り、誠に有難うございました。皆様方のお力添えにより順調に組織が運営されておりますこと、あらためて感謝申し上げます。

4月からコンソーシアム代表は岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器内科学教授 谷本光音先生に引き継がれます。「中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム」が地域に根付き、当初の目標であります「がん医療」の均てん化が実現されますこと、地域においてがん医療を支える優れた人材が数多く育成されますことを願ってやみません。

今後とも「中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム」への変わらぬご支援を賜りますよう、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

平成21年4月吉日

就任のご挨拶

コンソーシアム代表
谷本 光音



この度、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムの代表を務めさせていただくことになりましたので、皆様にご挨拶を申し述べさせていただきます。

これまでの私の役割でありましたFD委員長としては、日頃より多忙な中を教育・研修システムの立ち上げにご協力いただき心より感謝申し上げます。皆様のご努力のおかげをもちまして、各施設共通の教育・研修の枠組みが見え始めてきたと実感しています。しかしながら一方で、がん専門医療人の養成を最終的な成果とする本プロジェクトは既に計画の半ばに差し掛かっていますので、今後は人材の養成とともに、コンソーシアム内で育成した人材が活躍できる環境作りを中心とした将来を見据えた運営にも傾注してゆきたいと考えています。

すでに、前任の田中紀章先生はじめ皆様のご多大なるご努力により、強力な運営協力体制を作っていただいていますので、今後はさらにコンソーシアム内での有機的な人材の交流を図り、多くの若い医療人が主体的に参加し、それぞれのキャリアプランを具体化できるコンソーシアム作りを目指してまいります。

今後のさらなるコンソーシアムの発展と、人材育成を通じてこの企画に参加するすべての方々に素晴らしい成果が得られますことを祈念して就任のご挨拶に代えさせていただきます。



がんペプチドワクチン療法の現状と課題

愛媛大学大学院医学系研究科 生体統御内科学分野
教授 安川 正貴(がんプロコーディネーター)



はじめに

自己と非自己の識別と非自己の排除という免疫の概念が確立されるとほぼ同時に、自己の細胞から発症するがんは非自己であるのか、またそうであるのであれば、免疫系はがんを排除できるのかといった素朴な疑問が議論されてきた。他方、この基本的問題が分子レベルで解決しないままに、がんを免疫力で治療しようという試みが繰り返されてきた。結果は明らかであり、標的抗原が曖昧な免疫療法は無効であった。

この悲観的状況を打開したのは、分子免疫学や分子細胞生物学の進歩であり、ついに1990年代になり、T細胞が認識できるがん関連抗原の姿が明らかとなった¹⁾。その後の進歩は目覚しく、ヒト細胞傷害性T細胞(cytotoxic T lymphocyte; CTL)が認識でき、がん細胞の排除に結びつくがん関連抗原が次々と同定されている。このような背景の下、さまざまながんペプチドワクチン療法の臨床試験が国内外で進行している。臨床応用に向けて国が支援するスーパー特区に2つの課題が採択されていることからその期待の大きさが窺える。本稿では、がんペプチドワクチン療法の現状と課題について、特に筆者が専門にしている造血器腫瘍に焦点を当て概説する。

CTLの抗原認識機構

がん細胞内で合成されたがん関連タンパク質のうち、過剰に産生されたものや合成過程で折りたたみ工程(フォールディング)に失敗したものなどは、主としてユビキチン・プロテアソーム系によってペプチド断片に分解される。これらはTAPトランスポーターを介してERに輸送され、ここでHLAクラスI分子と会合する。その後ゴルジ体を介して細胞表面に発現される。CTLはその表面に発現されているT細胞レセプター(T-cell receptor; TCR)によってこの複合体を認識し、主としてパーフォリン・グランザイム系によってがん細胞を傷害する(図1)。



図1 CTLのがん細胞認識機構

重要なことは、HLAの種類によって結合するペプチドのアミノ酸配列が異なることである。通常、HLAクラスIの場合は、N末端から2番目および9番または10番目のアミノ酸によって規定されており、アンカーモチーフと呼ばれている。逆に、この原理を応用して、タンパク質のアミノ酸配列から特定のHLA分子に結合できるであろうペプチドが想定でき、エピトープの同定に有用な情報を提供している。

腫瘍関連抗原の同定

これまでに、腫瘍関連抗原の同定にはさまざまな手法が用いられてきた。初期には、がん患者から樹立したがん特異的T細胞株が認識するタンパク質をコードする遺伝子を、がん細胞から作製したcDNA発現ライブラリーを用いて同定することが多用された。さらに、がん患者血清中に存在する抗体に対応する抗原を決定し、T細胞認識抗原の可能性を検証するSEREX法も多大な成果を挙げた。現在は、遺伝子発現の網羅的解析結果を基に、がん細胞に特異的に発現されているタンパク質が多数同定されている。

これらの候補タンパク質から、前述したreverse immunogenetics法によってHLA結合ペプチドを同定することが一般的であるが、さらに全アミノ酸配列をカバーするように、一部重複したペプチドを網羅的に作製

がんペプチドワクチン療法の現状と課題

し、抗原特異的T細胞が認識するペプチドの最小単位を決定する方法、さらにはがん細胞表面のHLAに結合しているペプチドを直接マス・スペクトロメトリーによって同定することも試みられている。

がんペプチドワクチン療法の現状

白血病関連抗原由来エピトープを合成ペプチドとしてアジュバントとともに接種するペプチドワクチン療法が、国内外で様々な臨床試験として進行中である。急性白血病に対しては、proteinase 3、WT1、RHAMM/CD168などを標的としたペプチドワクチン療法の臨床試験が実施されている。

proteinase 3はmyeloblastinとも呼ばれ骨髄系細胞に特異的に発現されている。急性骨髄性白血病(acute myelogenous leukemia; AML)細胞では、正常骨髄系細胞に比べその発現量が数倍高い。ウェゲナー肉芽腫で認められるc-ANCAの対応抗原としても知られている。米国のグループはHLA-A*0201拘束性CTLを誘導する9merのアミノ酸からなるproteinase 3由来ペプチドPR1を同定した²⁾。さらに彼らは、PR1ペプチドワクチン療法の臨床試験を開始しており、その成果が発表されている。それによると、9名の患者のうち4名の患者でPR1特異的CTLが誘導され、その内3名は寛解に至った³⁾。PR1の臨床試験は、現在さらに他施設においても進行中である。

WT1はzincフィンガー型の転写制御因子であり、急性白血病ではその病型にかかわらず高発現を認める。最近では、種々の固形がんもWT1を高発現することが報告されている。以上のような知見から、WT1は悪性腫瘍に特異的なCTLの理想的標的抗原となり得ると考えられ、事実WT1特異的CTLがHLA拘束性に腫瘍細胞を傷害することが示されている⁴⁾。これらの研究成果を基に、現在いくつかのWT1ペプチドワクチン臨床試験が進行中

である。ドイツのグループは、HLA-A*0201拘束性CTLを誘導するWT1ペプチドを用いた白血病に対する第I/II相臨床試験を進めている⁵⁾。12名のAML患者において、1名で完全寛解、2名で完全寛解の維持が得られ、4名で観察期間中、白血病の進行を認めなかったとしている。我が国においても、大阪大学のグループによってHLA-A24結合WT1ペプチドワクチンの臨床試験が進められている⁶⁾。報告された第I相臨床試験は、乳がん2例、肺がん10例、白血病14例の合計26例を対象としたものであり、評価可能であった20例のうち12例において、白血病細胞の減少、腫瘍サイズの縮小、腫瘍マーカー値の低下など何らかの臨床効果が認められた。我々も、HLA-A24結合性WT1およびhTERTペプチドワクチン第I相臨床試験を開始しており、これまでに注射部位の発赤以外有害事象はなく、腎がん肺転移巣の縮小や輸血依存性骨髄異形成症候群において貧血の改善などが見られた症例を経験している(図2)。

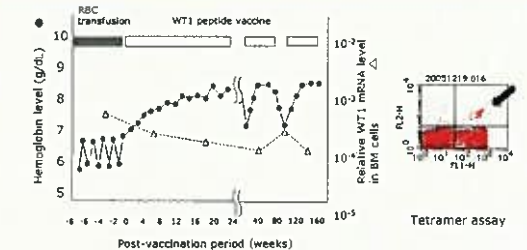


図2 WT1ペプチドワクチンの骨髄異形成症候群に対する臨床効果
WT1ペプチドワクチン接種後、貧血の改善とWT1特異的CTLの誘導が認められた。

がんペプチドワクチン療法の問題点と展望

上記したように、さまざまながんペプチドワクチン療法が進行しているが、ペプチド特異的免疫応答は誘導されるものの、一部の症例を除き、大きな臨床効果は得られていないのが現状である。より効果的な治療開発の試みの一つとして、多種類のペプチドワクチンから予め患

がんペプチドワクチン療法の現状と課題

者毎個別に免疫応答をin vitroで検討し、最も免疫応答誘導能が高いペプチドを組み合わせるテラーメイド型のワクチン療法も行われている。また、ペプチドとともに投与するアジュバントの選択は極めて重要な点であり、今後免疫応答を効率よく誘導できる系の確立が望まれる。さらに、TCR遺伝子導入などによって、予めがん特異的CTLを大量に作製し、患者に戻す遺伝子細胞免疫療法の開発も進んでいる⁷⁾。

おわりに

現在国内外で進行しているがんペプチドワクチン療法につき概説した。安全性は証明され、一部の症例で著明な臨床効果が得られているものの、多くの症例ではいまだ十分に満足すべき結果は得られておらず、より効果的な免疫応答を誘導するためには更なる工夫が必要と思われる。他方、基礎研究の進展によって、がん免疫療法に対するさまざまな障害も浮き彫りにされつつある。例えば、がん細胞表面からのHLA分子の発現低下や消失、免疫応答を負に制御する制御性T細胞の問題などである。これらの克服は避けて通れない重要な課題であり、更なる基礎研究の発展が望まれる。

参考文献

1. van der Bruggen P, Traversari C, Chomez P, et al. A gene encoding an antigen recognized by cytolytic T lymphocytes on a human melanoma. Science. 1991;254:1643-1647.
2. Mouldrem JJ, Lee P, Wang C, et al.: Evidence that specific T lymphocytes may participate in the elimination of chronic myelogenous leukemia. Nat Med. 2000;6:1018-1023.

3. Mouldrem JJ, Kant S, Lu S, et al. Peptide vaccination with PR1 elicits active T cell immunity that induces cytogenetic remission in acute myelogenous leukemia. Blood. 2002;100:6a.
4. Ohminami, H., Yasukawa, M. and Fujita S.: HLA class I restricted lysis of leukemia cells by a CD8+ cytotoxic T-lymphocyte clone specific for WT1 peptide. Blood. 2000;95: 286-293.
5. Keilholz U, et al.: Clinical and immunological activity of WT1 peptide vaccination in patients with acute myeloid leukemia and myelodysplasia: Results of a phase II trial. Blood. 2006;108: 567a.
6. Oka Y, Tsuboi A, Taguchi T, et al. Induction of WT1 (Wilms' tumor gene)-specific cytotoxic T lymphocytes by WT1 peptide vaccine and the resultant cancer regression. Proc Natl Acad Sci U S A. 2004;101:13885-13890.
7. Tsuji T, Yasukawa M, Matsuzaki J, et al. Generation of tumor-specific, HLA class I-restricted human Th1 and Tc1 cells by cell engineering with tumor peptide-specific T-cell receptor genes. Blood. 2005;106:470-476.

インフォームド・コンセントの歴史的背景

香川大学医学部 泌尿器科学講座
教授 寛 善行(がんプロコーディネーター)



医師と患者との関係は紀元前からつい最近まで、いわゆるパターナリズムが主流であった。医師は患者の利益を「我が子を護るが如く護る」というヒポクラテスの誓いに象徴されるように、患者の意思とは無関係に患者の為になるとする医療行為を遂行する姿勢が医の倫理とされてきたのである。しかし、20世紀初めにあった医療過誤裁判において、有効な「同意」が得られないままの医療行為は暴力行為と同等であると判決が下され、何らかの医療行為を行うにあたっては、患者に起こりうるリスクを知らせる必要性が示され、インフォームド・コンセントの概念が形成される端緒となった。

第二次世界大戦におけるナチスドイツがユダヤ人捕虜を対象に行った冷凍実験や病原菌感染実験などの人体実験は、その後のニュルンベルクでの裁判で厳しく裁かれ、ヒトを対象とする医学研究における10項目の倫理基準の提示につながった。このいわゆるニュルンベルク・コードが1964年の世界医師会によるヘルシンキ宣言の下敷きになるわけである。ヘルシンキ宣言は「人体実験はしない」という宣言ではなく、むしろ医学の発展のためにはヒトを対象にした試験は不可欠だという前提に立った倫理的規範を示したものである。

その後、ヘルシンキ宣言に基づき、ヒトを対象とした臨床試験が順調に成熟したかという点、道徳性はそれほど平坦ではなかった。むしろ、世界各地で著しく倫理性を欠く臨床試験が日常茶飯事のように行われてきたと言わざるを得ない。米国で20世紀半ばに起こったタスキギー事件はその象徴であろう。アラバマ州タスキギー郡の黒人梅毒患者に対する米国公衆衛生

局が行ったコホート研究であるが、梅毒の治療法が確立した後も被験者に適切な治療を行わず検査のみで経過観察していた事件である。コホートの対象が黒人であったことから、人種差別問題も絡み大変問題となった研究である。我が国でも、第二次世界大戦中の旧日本軍731部隊による人体実験が、癒えない傷として歴史に汚点を残している。

我が国は元々パターナリズムの強い社会であったため、患者の権利を保護する法律の整備は遅れ気味であった。1989年から制定された医薬品の臨床試験の実施基準(GCP)は、当初医薬品の承認申請のための試験のみを対象としたものであった。1997年になって、ようやくICH-GCP(日米欧共同の規範)を受け入れ、インフォームド・コンセントの条項も充実し世界水準に追いつきつつある現状である。

近年の情報社会の成熟は、患者の有する知識量を格段に増加させ、医師は十分な説明なしに治療方針を決定することは不可能になっている。医師と患者が責任を分担して、治療方針の選択をする、いわゆるshared decision-makingの時代に突入し、適切なインフォームド・コンセントの獲得のためのプロセスがより一層厳しく問われている。

平成20年度 活動報告

がん看護専門看護師コースWG

活動概要

中国・四国広域がんプロコンソーシアムのがん看護専門看護師コースWGは、平成19年度よりがん看護専門看護師養成はもちろんのこと、がん医療に携わる人々にがん看護専門看護師ならびにその専門性をご理解いただく活動やがん看護の質向上に貢献すべく講演会や研修会などの活動を開始して2年目を迎えた。

平成20年度は、3大学合同企画として「がん看護専門看護師のエキスパートネスと活動の実際」、「チーム医療におけるがん看護専門看護師のエキスパートネス」をテーマに2回の講演会、各大学院企画として「がん化学療法における高

日時・場所	テーマ	講師・シンポジスト	参加数者
第2回 講演会 7月27日(日) 13:00～16:00 徳島	がん看護専門看護師の エキスパートネスとそ の活動の実際	豊田 邦江 氏(細木病院緩和ケア病棟師長・がん看護CNS) 「緩和ケアにおけるがん看護専門看護師の役割とその活動の実際」 田中 登美 氏(近大姫路大学看護学部、がん看護CNS) 「がん化学療法におけるがん看護専門看護師の役割とその活動の実際」 宮井 千恵 氏(高知大学医学部附属病院副院長・看護部長) 「看護管理者の立場からがん看護専門看護師への期待と課題」	120名
第3回 研修会 9月20日(土) 13:00～16:40 高知女子大学	がん化学療法における 高度な看護実践をめざ して	辻 晃仁 氏(高知医療センター腫瘍内科医長) 「がん化学療法の基礎および治療による副作用と対応」 角野 美佳 氏(三田市民病院がん看護CNS) 「がん化学療法を行っている人への高度な看護実践」	141名
第4回 研修会 11月29日(土) 13:30～16:30 岡山大学	がん看護における 緩和ケア	田村 恵子 氏(淀川キリスト教病院ホスピス主任看護課長・がん看護CNS) 「緩和ケアにおける看護師の役割～がん患者の全人的苦痛とケア」	329名
第5回 講演会 12月7日(日) 13:00～16:30 岡山	チーム医療におけるが ん看護専門看護師のエ キスパートネス	小笠原利枝 氏(横浜市立みなと赤十字病院 がん看護CNS) 「チーム医療におけるがん看護専門看護師の専門性と活動の実際」 栗原 幸江 氏(静岡県立静岡がんセンター緩和医療科 心理療法士) 「がん看護専門看護師との協働の実際と展望—心理療法士の立場から」 小島 昌徳 氏(横浜市立市民病院薬剤部 がん薬物療法認定薬剤師) 「がん看護専門看護師との協働の実際と展望—薬剤師の立場から」 北村 宗生 氏(仁生会 細木病院副院長 外科・緩和ケア医師) 「がん看護専門看護師との協働の実際と展望—医師の立場から」	143名
第6回 研修会 1月25日(日) 13:00～15:00 徳島大学	最新の疼痛マネジメント の実際とがん看護専 門看護師の果たす役割 ～がん化学療法を受け ている患者を中心に～	田墨 恵子 氏(大阪大学医学部附属病院オンコロジーセンター看護部長・がん看護CNS)	103名
3大学院がん看護 合同セミナー 9月1日2日 徳島大学	リンパ浮腫に対する看 護援助	井沢 知子 氏(京都大学医学部附属病院がん看護CNS)	23名

がん看護専門看護師コースWG

度な看護実践をめざして(高知女子大学)、「がん看護における緩和ケア」(岡山大学)、「最新の疼痛マネジメントの実際とがん看護専門看護師の果たす役割」(徳島大学)をテーマとする講演会・研修会を合計5回行った(※表)。いずれの講演会・研修会も全国から多数の参加者を得て、がん看護専門看護師への関心の高さや期待が伺えた。また、今年度から新たな企画として、徳島大学、高知女子大学、岡山大学の3大学院合同で修士1年生・2年生を対象にがん看護合同セミナーを9月に2日間開催した。各大学院の学生は、がん看護専門看護師を講師に迎え「リンパ浮腫に対する看護援助」について講義を受け、実際に演習を行い、共に学び交流し輪を広げることができた。このセミナーは、専門性を高めるだけでなくがん看護のネットワーク作りにも成果をあげていると評価できる。

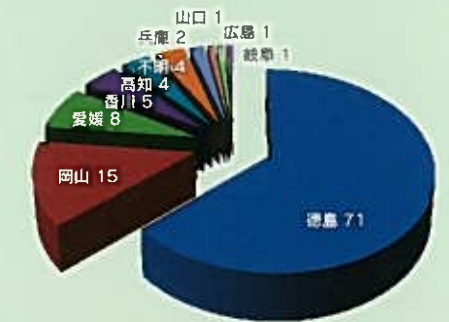
実績報告

<全体企画>

1. がん看護専門看護師のエキスパートネスとその活動の実際(7月27日 於:徳島)

がん看護専門看護師の専門性や役割、活動状況、もたらしている変化などについて具体的に知って頂くことを目的に講演会を開催した。講演会では2名のがん看護専門看護師の方にそれぞれのサブスペシャリティ「緩和ケア」、「化学療法看護」を中心に具体的な活動内容について、また看護部長の役職にある方には、看護管理者の立場からがん看護専門看護師への期待や課題についてご講演いただいた。

参加者は、徳島(71)、岡山(15)、愛媛(8)、香川(5)、高知(4)、その他/不明(17)からの120名であった。アンケートより、「がん看護専門看護師の役割や活動についてわかったか」に対して、「よくわかった」(29.7%)、「まあまあわかった」(69.2%)、「がん看護の質向上のために専門看護師は必要か」に対しては、「必要である」(93.4%)、「まあまあ必要である」(6.6%)の結果が得られ、講演会の目的は達成できたと考える。



《参加者のコメントより》

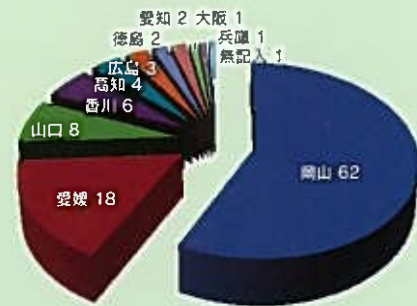
- ・豊田氏の事例を通してOCNSの役割が具体的に理解でき大変良かったです。田中さんの5年間のお仕事、チーム医療の実践がすばしかったです。宮井部長さんには、今後中・四国9県のレベルアップになるように遅れている県にPRしてほしいです。
- ・今回初めて参加しまして同じように興味がある人が多いのだと感じました。今度、資料やホームページなどで、情報収集をしてがん看護専門看護師を目指して進んで行きたいと思います。

2. チーム医療におけるがん看護専門看護師のエキスパートネス(12月7日 於:岡山)

チーム医療におけるがん看護専門看護師の専門性や役割、チームの中での活動状況、活動による成果などについて具体的な理解と認知を多職種を通して得ることを目的に講演会を行った。講演会では、がん看護専門看護師の活

動の実際はもちろんであるが、チーム医療においてがん看護専門看護師と協働している医師、薬剤師、心理療法士の方々から、それぞれの立場でがん看護専門看護師と協働して、がん患者への質の高い医療を提供するために取り組まれていることや専門看護師への期待をご講演いただいた。

参加者は、岡山(62)、愛媛(18)、山口(8)、香川(6)、高知(4)、広島(3)、徳島(2)、その他/不明(40)からの143名であった。アンケートより、「がん看護専門看護師の役割がわかったか」に対して、「よくわかった」(41.7%)、「まあまあわかった」(56.5%)、「がん看護の質向上のために専門看護師は必要か」に対して、「必要である」(94.4%)、「まあまあ必要である」(5.6%)の結果が得られ、講演会の目的は達成されたと考える。



《参加者のコメントより》

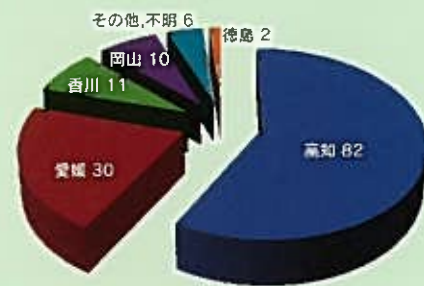
- ・認定、CNSなど分野が細分化されることで、互いが協働し専門性を活かすことが、看護や医療の質の向上—患者家族の利益につながるということがわかった。
- ・初めてこのような会に参加させてもらい、今のがん看護の現状やOCNSの役割、チーム医療の重要性を様々な職種の視点から学ぶことができ、とても参考になりました。

<各大学院企画>

1. がん化学療法における高度な看護実践をめざして (高知女子大学)

がん医療の現場では、安全で効果的に化学療法を行い、患者様やご家族が「その人らしい生活」を送ることを支援できる看護職の存在が大きい。そこで、今回の研修会は腫瘍内科医、化学療法看護をサブスペシャリティとするがん看護専門看護師より、治療の基本や治療を行っている人の状況の理解、化学療法に伴う副作用・合併症に対する適切な対応や治療に伴う様々な問題への対応と支援の実際についてご講義いただいた。

参加者は、高知(82)、愛媛(30)、香川(11)、岡山(10)、徳島(2)、その他(6)からの141名であり、以下の内容のコメントより、研修会の目標は達成できたと評価できる。



《参加者のコメントより一部抜粋》

- ・経験年数が短く、知らないことが多かったので、すごく勉強になった。がんの患者さんのためにこれからもがんばっていききたい。
- ・化学療法について詳しく学習できた、知識を深められた、新しい情報を知った。
- ・当院の外来化学療法は改善すべき点が多いと改めて考える機会となった。

- ・ケモに対して不勉強のため不安が大きく抵抗があったが、今日参加してケモについてもっと勉強してみたいと思えるようになった。
- ・日頃現場では知りえないことも学ぶことができた。
- ・化学療法をすることで、こんな症状がでたら何をしなければいけないか、また、症状に対する対処方法を学ぶことができた。
- ・DrとNsの両側面から学べてよかった。
- ・看護師としての役割がよくわかった。

2. がん看護における緩和ケア (岡山大学)

がんを患う方々とそのご家族は、がんがもたらす痛みやそれ以外のさまざまな身体のつらさ、心理・社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛をかかえることがあり、その苦痛がQOLを低下させ、日常性の維持を阻むことになる。そこで、緩和ケアのなかでもとりわけスピリチュアルな苦痛緩和に取り組みでられるがん看護専門看護師にご講演いただいた。

参加者は、岡山(228)、高知(29)、香川(28)、徳島(13)、その他(31)からの329名であり、以下の内容のコメントより、研修会の目標は達成できたと評価できる。



《参加者のコメントより》

- ・とても興味深く今後の自分の看護を見直すよい機会となりました。
- ・今自分の経験で知っている医療はほんの一部でこれから臨床や研修等にてたくさんのことを学んでいきたいと改めて感じることができました。
- ・生と死、その現場に合わせることができると誇りに持って働けるようがんばります。(なお、岡山大学企画についてはマンスリーレポートVol. 12, p4-6においてすでに紹介しました)

3. 最新の疼痛マネジメントの実際とがん看護専門看護師の果たす役割 (徳島大学)

がん患者のQOLを左右する主要な問題のひとつが疼痛であり、疼痛マネジメントに関する専門的な知識・技術は関心の高いテーマです。本講演では、がん性疼痛治療の基本を押さえながら、最新の疼痛マネジメント方法、患者に対するセルフケア支援、難治性の疼痛に対する神経ブロック、また事例を含めた化学療法を受けている患者の疼痛ケアについて講演をいただいた。



がん看護専門看護師コースWG

参加者は、徳島(45)、岡山(28)、香川(13)、高知(8)、愛媛(8)、広島(1)からの103名であった。「がん看護専門看護師の役割がわかったか」に対して、「わかった」(58%)、「まあまあわかった」(42%)と良好であり、研修会の目的は達成できたと評価できる。

《参加者のコメントより》

- ・今回参加することができてよかった。今後がん性疼痛のある患者様に対して除痛について今回学んだことを生かしていきたい。
- ・様々な認定看護師や専門看護師の話が聞いてみたい。
- ・専門看護師が活躍できる環境を整備できている施設が少ない。
- ・病院管理者サイドが専門看護師をどのように考えているのか不安に思うことが多く、その道に進みにくい面がある。
- ・専門看護師の今後の展望について話が聞きたい。

活動評価と次年度への課題

参加者は中国・四国地域を越えた地域からの参加があったこと、毎回100名程度以上の参加者があったこと、および自由記載内容からも、がん看護専門看護師への関心や期待を高めることができたことと推察できる。

各企画において今後取り上げてほしいテーマや内容について参加者に聞いたところ、『CNSの6つの役割機能の活動の実際を具体的にプレゼンテーションしてほしい』『プライバシー保護が可能であれば、症例検討をしてほしい。どのようにOCNSが関わったのか具体的に詳しく知ることができたら、OCNSの仕事の内容がよりわかると思う』というようながん看護専門看護師の活動の専門性に関する事柄と同時に『がん性疼痛を抱える患者と家族への看護および地域医療との関わりについて』『放射線治療にかかわるCNSの活動について』『外来のがん化学療法について』『緩和ケアの実際』のようにがん看護専門看護師のサブスペシャリティに関する内容を上げてほしいという希望があった。

このような意見を受け、「専門性とサブスペシャリティの具体的理解」が今後の課題と考えた。そこで、平成21年度は、がん看護専門看護師の6つの役割のうち、倫理調整・コンサルテーション・コーディネーションに注目した講演会を開催すると同時に「化学療法看護」「放射線療法看護」「緩和ケア」といったサブスペシャリティに焦点を当てた講演会・研修会を企画し、「がん看護専門看護師のエキスパートネス」という今年度のテーマを継続させていくことで、がん看護専門看護師への関心や期待をより高めていきたいと考えている。また合同ゼミも継続させ、院生のがんリハビリテーションへの理解を深めていきたいと考えている。

文責：高知女子大学 看護学部
看護学科教授 藤田 佐和(がんプロコーディネーター)

「緩和医療専門医コース」新設

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 緩和医療学講座
教授 松岡 順治



平成21年4月より岡山大学大学院において中国・四国広域がんプロ養成プログラム「緩和医療専門医コース」を開設いたしました。

「緩和医療専門医コース」は、がん対策基本法の理念に基づき、次世代のがん医療を担う医療人の養成推進を目的とした「がんプロフェッショナル養成プラン」の一環として大学院において緩和医療の専門医を養成するコースです。

皆様ご存知のごとく、緩和医療は終末期のみに行われるものではありません。がん治療のすべての過程において、患者さんとその家族のQOLを高めることを目的とした緩和医療が行われます。換言すれば、がん治療にはそのベースに常に緩和医療が存在するべきであります。薬物療法を専門にする医師も、放射線治療を専門にする医師も、腫瘍外科を専門にする医師もすべからず緩和医療の知識を持ち、がん治療にあたるべきだと考えます。

私たちの中国・四国広域がんプロ養成プログラムにおいては、チーム医療のマインドを持つがん専門医療人を養成することを特に重視しています。そのために周到なカリキュラムを設計しています。集学的治療、多職種協働のがん医療を行うために早くから他職種の学生とともに連携を学び、その重要性を認識することで社会から求められる成熟したがん専門医療人となることができます。緩和医療はチームによる医療が基本となります。緩和医療実習を通じてチーム医療のマインドを醸成していただくと考えます。本コースを修了しますと緩和医療学会認定の緩和医療専門医の取得に有利となります。

中国・四国から多くの緩和医療に通じた医療人が輩出され、日本のがん医療をリードしていただける時代がすぐそこに来ていることを確信しています。

ぜひ緩和医療のコースを履修していただくよう御願ひ申し上げます。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
第4回緩和インテグレーションワークショップ：SP・CSS(スピリチュアルカンファレンスサマリーシート)を使った
医師のための援助的コミュニケーションとスピリチュアルケア研修会

主 旨： 終末期がん患者のスピリチュアルペインの構造を人間存在の時間性・関係性・自律性の3次元から解明し、スピリチュアルケアの指針(2003)の研究を基礎に、スピリチュアルケア援助プロセスを定式化したSP-CSS(スピリチュアルカンファレンスサマリーシート)の作成と終末期がん患者へのケアに必須の援助的コミュニケーションを演習・ディスカッションで学びます。

【文献】村田久行(2003)：終末期がん患者のスピリチュアルペインとそのケア：アセスメントとケアのための概念的枠組みの構築 緩和医療学5:157-165

内 容 (本ワークショップは約4時間×3回=12時間の演習です)

受講生
募集中

- 第1日研修
- 1) 主旨説明—本ワークショップの目的、方法の説明
 - 2) 対人援助的ケア(拾遺)とケアの専門職性—
 - 3) 援助的コミュニケーションの演習
- 第2日研修
- 4) スピリチュアルケアの理論的解説とSP-CSS作成の要点説明
 - 5) SP-CSS作成のグループワーク (グループでサンプル事例を用いて)
 - 6) 質疑応答：各グループのSP-CSSを比較検討する
 - 7) 受講者各自の臨床での援助的コミュニケーション会話記録の事例検討
- 第3日研修
- 8) 受講者各自の臨床での会話記録とSP-CSSを用いての事例検討

対 象： 終末期がん患者への臨床でケアに携わる医師 6名

日 時： 第1日研修：平成21年6月16日(火) 13:00~17:30
第2日研修：平成21年7月7日(火) 13:00~17:30
第3日研修：平成21年7月28日(火) 13:00~17:30

※ 受講には、全3日間の出席が必要です。部分参加はできません。

場 所： 岡山大学病院カンファレンスルーム111号
岡山市北区鹿田町二丁目5番1号

講 師： 村田久行(京都ノートルダム女子大学生活福祉文化学部教授)

事業協力：NPO法人対人援助・スピリチュアルケア研究会

申込方法：事務局に「受講申込書」の必要事項をご記入の上、6月5日までにメールでご送付ください。

E-mail: info@chushi.ganpro.jp (申込先着順とさせていただきます)

お問い合わせ先：中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
事務局 松岡 順治
TEL 086-235-7023 FAX 086-235-7045

インテンシブコース・講習会のご案内

Seminar information

平成21年度第2回がんプロインテンシブコースセミナー 国内がんセンター研修報告会

日時 平成21年6月3日(水) 18:00~19:10

場所 山口大学医学部霜仁会館3階

担当 山口大学医学部学務課大学院教務係

国内がんセンター研修報告会

日程：6月3日(水)
時間：18:00~19:10
会場：医学部霜仁会館 3階 多目的室

時間	講演者
18:00~	消化器・腫瘍内科 鈴木 伸博先生
18:20~	呼吸器 大庭 孝子先生
18:40~	腎臓科 坂本 雅博先生
18:55~	泌尿器 大野 雅博先生

問合せ 山口大学医学部学務課 大学院教務係 電話 0836(22)2055
FAX 0836(22)2055

大学院臨床腫瘍学教育課程セミナー がんによる骨病変の トランスレーショナルリサーチの展開

日時 平成21年6月3日(水) 15:00~18:00

場所 徳島大学医学部第一会議室

担当 徳島大学呼吸器・膠原病内科

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
大学院臨床腫瘍学教育課程セミナー
がんによる骨病変の
トランスレーショナルリサーチの展開

日時：2009年6月3日(水) 15:00-18:00
場所：医学部第一会議室(医学基壇A棟2F)

Translational Research on
Cancer-Induced Bone Disorder
Wednesday, June 3, 2009 15:00 - 18:00
First Conference Room (Basic Medical Science Bldg. 2nd Floor)

Chair: Toshihiro Horikawa, MD PhD & Saburo Sato, MD PhD

Speakers:
Shoji Inoue, MD PhD, Assistant Prof. of Respiratory Medicine & Hematology, Tokushima Univ.
Satoru Sato, MD PhD, Assistant Prof. of Hematology & Oncology, Tokushima Univ.
Takeshi Inoue, MD PhD, First Deputy Director of the National Foundation for Cancer Research
Yoshitaka Tani, MD PhD, Assistant Prof. of Hematology and Experimental Dynamics of Cell-Cycle
progression of Cancer cells in vivo
Chris Thompson, PhD, Associate Prof. of Breast and Endocrine Medicine, MRC13 and Cancer4
Professor T. Tsunoyama, MD, Senior Lecturer of Health Science at National Institute of Advanced Industrial Science and Technology
Chieko Hoshino, PhD, Senior Lecturer of Health Science at National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

問合せ 山口大学医学部学務課 大学院教務係 電話 0836(22)2055
FAX 0836(22)2055

平成21年度第3回がんプロインテンシブコースセミナー FD研修報告会

日時 平成21年6月8日(月) 18:00~19:05

場所 山口大学医学部霜仁会館3階

担当 山口大学医学部学務課大学院教務係

FD研修報告会

日程：6月8日(月)
時間：18:00~19:05
会場：医学部霜仁会館 3階 多目的室

時間	講演者
18:00~	講演
18:10~	放射線科 山中 隆雄先生 (山形大学)
18:20~	放射線科 橋本 一夫先生 (山形大学)
18:40~	消化器・腫瘍内科 徳本 伸博先生 (山口大学)

問合せ 山口大学医学部学務課 大学院教務係 電話 0836(22)2055
FAX 0836(22)2055

平成21年度第3回がんプロインテンシブコースセミナー がんの放射線治療

日時 平成21年6月12日(金) 17:30~19:00

場所 山口大学医学部霜仁会館3階

担当 山口大学医学部学務課大学院教務係

「がんの放射線療法」

山口大学医学部附属病院放射線科 津本 智司 先生

日時：平成21年6月12日(金)
時間：17:30~19:00
場所：山口大学医学部霜仁会館3階多目的室

問合せ 山口大学医学部学務課 大学院教務係 電話 0836-22-2955
FAX 0836-22-2955

第4回緩和インテンシブコース 医師のための援助的コミュニケーションと スピリチュアルケア研修会

日時 平成21年6月16日(火)・7月7日(火)・7月28日(火)
いずれも13:00~17:30

場所 岡山大学病院入院棟11階

担当 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科学務課

※受講には全3日の出席が必要です。部分参加はできません。

第4回緩和インテンシブコース
SP-CSS 2009 医師のための
援助的コミュニケーションと
スピリチュアルケア研修会

6月16日(火)・7月7日(火)・7月28日(火)
いずれも13:00~17:30
岡山大学病院入院棟11階
受講には全3日間の出席が必要です。部分参加はできません。

申込先 大学院医歯薬学総合研究科学務課
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局
Eメール info@chushiganpro.jp 内線 7023

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムでは生涯学習の一環として、がん医療に関する最新の情報を提供するなど、がんの診断・治療・研究に必要な高度先進的な知識と技術を習得していただくために各種セミナーを開催しております。

講演会・セミナーの詳細はホームページでご確認ください。

<http://www.chushiganpro.jp>

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Vol.14

- 編集兼発行者
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局
TEL 086-235-7023
- 印刷所
有限会社 ファーストプラン